

第94期(平成28年度)東京与論会 会員のつどい

とき 平成28年11月20日(日)
ところ 日本教育会館



与論島航空写真
大金久海岸

百合が浜
百合が浜

♥♥♥ 絆つないで93年 ♥♥♥

東京与論会

与論町民歌

作詞 内 与詩守
作曲 益田 元甫

一、黒潮はるかに 明けわたり
朝日に燃える さんご礁^{しょう}
自然のめぐみ 拓きつつ^{ひら}
あかるく進む わが与論
ああ この空に この海に
みんなの夢が あふれてる

三、名残りもゆかしい 城の跡
あこがれ寄せる 百合ヶ浜^{ゆりがはま}
昔をしのび 今を知り
心をむすぶ わが与論
ああこの町に この郷^{さと}に
かがやく明日^{あす}が 待っている

二、港に世紀の 声すれば
畑にキビの 茂るうた
玉なす汗も 美しく
ゆたかに伸びる わが与論
ああ この島に この土に
まことの花が 咲き香る



◇ 町章（昭和41年1月1日制定）



丸い輪（和）の中に「与」のダイヤをかたどり、
わが島をたたえ、いやさかえに豊かな島の躍進を
おもう。

◇ 町木：島クロキ（昭和58年指定）



◇ 町木：ガジュマル（昭和59年指定）



◇ 町花：ハイビスカス（昭和58年指定）



与論町人口（H28. 9 末現在）

所帯数	2 5 6 3
人 口	5 3 4 8
男	2 5 9 3 / 女 2 7 5 5

ごあいさつ

本日は第94期（平成28年度）東京与論会会員のつどいにご出席賜りありがとうございます。

本日お集まりのご来賓各位並びに会友・会員の皆様方には、本会の活動に対しまして日頃より多大なご理解とご指導、ご協力を賜っておりますことに対し、心より厚くお礼申し上げます。

故郷与論町では、去る8月の町議会議員選挙において10名の議員を選出、福地新議長には本日のつどいにご出席を賜りました。

また、今年は与論高等学校が創立50周年を迎え、同じく与論3小学校の姉妹校である東十条小学校が創立60周年を迎えました。両周年式典行事が本日のつどいと前後することから、当会には町長に代わり町岡教育長にご出席賜りました。

お二方には町政や教育行政における島の現状や課題、将来展望などを含めお話を賜りたいと存じます。

また本日は、東十条小学校の卒業生で、在校時の与論3小学校との交流をきっかけにして、家族で与論を訪ねて島の自然や人々とふれ合い、交流した体験を感動的に描いてJTB交流文化賞の最優秀賞を受賞された大久保様をお迎えし、その与論との交流についてご講話を賜ります。

今日会場には老若男女、与論ゆかりの方々が大勢つどいました。我々会員それぞれが今日一日を故郷与論に想いを馳せ、与論のために何ができるかを考えつつ、島の唄・踊りや島の酒有泉を堪能しながら、島ム又ガッタイに花を咲かせましょう。

本日は、何かと不行き届きの面多々あるかと存じますが、ご容赦いただきまして、皆様方で大いに盛り上げていただき、楽しい有意義な一日をお過ごし下さい。

平成28年11月20日

東京与論会会長 竹内 英健

会員のつどい プログラム

総合司会：幹事長 前田 文男

第一部 トーク (12:00~12:50)

- 郷土遙拝、町民歌斉唱
- 会長ごあいさつ 東京与論会会長 竹内 英健
- 祝 辞 与論町議会議長 福地元一郎
与論町教育委員会教育長 町岡 光弘
全国与論会幹事長 基 武雄
東京奄美会会長 森 眞一
東十条小学校校長 福田 猛
- 講 話 「ユンヌの海」作者、作家 大久保 泰裕
(演 題) 私と与論島の出会い ～ユンヌの海について～

<休憩(10分間)>

第二部 懇親会 (13:00~16:30)

- 祝 舞 かぎやで風(御前風) 立村ナヘ子、尾張涼子
(地謡) 叶 生二、永井常誠、池田信忠
竹内英健、伊東哲洋
- 乾 杯 与論町栄誉町民 佐藤 持久
- 開 宴 (司 会：五十嵐千代、向井秀一)
お食事・ご歓談
与論献捧の儀 入来武久 他
ご来賓・会友のご紹介 会長より
余興(演芸) 右頁参照
- 万歳三唱(閉会)

余興（演芸）演目 出演者

1. (オープニング) エイサー演舞 舞^ぶ弦^{げん}鼓^こ (ゆんぬエイサー集団)
 2. (琉舞) 上り口説 青井 裕子
 3. (歌唱) 与論島慕情 他 ^{じゅり}寿里 (林 寿里香)
 4. (舞踊)^{あしみじゅう}汗水節 立村ナヘ子、尾張 涼子、竹内 洋子
池田 増代、伊東みずえ、竹 成代
永井 常誠、池田 信忠、竹内 英健、青井裕子
 5. (歌唱) 想い唄 他 平川 美香
 6. (来年の) 年男、年女大集合！ 与論中学校13期卒業生 (来年73歳)
与論高校7期卒業生 (来年 還暦)
与論高校19期卒業生 (来年49歳)
- お楽しみ抽選会**
7. (舞踊) 与論音頭 他 東京与論会&東京奄美会 女性部
 8. (唄三線) 島育ち 他 あおい&さおり(中山^{あおい}青海、深澤^{さおり}砂織)
 9. 全日本空手道選手権大会 優勝報告 入来 建武
 10. (ミニライブ) ていだ 他 川畑兄弟 (川畑アキラ、川畑^{きとし}智史)
 11. (再び) エイサー演舞 舞^ぶ弦^{げん}鼓^こ (ゆんぬエイサー集団)
 12. (フィレ) カチャーシー 会場全員

会場の展示コーナーに下記展示をしています。

- 千代皇～番付、写真他
- 入来建武～優勝トロフィー他
- 大久保泰裕氏の「ユンヌの海」最優秀表彰状他
- 会員の作品

二次会のご案内

懇親会終了後、17:00より 同会場で二次会を行います。(会費 2,000円)

第93期(平成27年度) 会務(中間) 報告

自 平成27年11月 8日
至 平成28年11月20日

(平成27年)

- | | | |
|----------------|---|-----------------------|
| 11月 8日 | 第93期(平成27年度) 総会・敬老懇親会
(会員150余名、来賓30名、会友20名、全200余名) | 日本教育会館 |
| 11月19日
～22日 | 東京奄美会郷土表敬訪問(20、21日与論町)
(竹本、五十嵐参加、佐藤、山下、叶、竹内歓迎) | 喜界～大島～徳之島
～沖永良部～与論 |
| 12月 5日 | 東京奄美会拡大役員会 | 目黒三州倶楽部 |
| 12月14日 | 与論会・沖洲会合同忘年会(沖洲会主催)
(与論会25名、沖洲会30名出席) | 神田「天狗」 |

(平成28年)

- | | | |
|----------------|---------------------------------------|-------------|
| 1月 8日 | 我謝孟俊氏叙勲受章祝賀会(会員有志50名出席) | アムステルダム市ヶ谷 |
| 1月 9日 | 東京奄美会執行部会 | 神田区民館 |
| 1月11日 | 鹿児島与論会新年会(佐藤・竹本両顧問出席) | 鹿児島ジエイトガーデン |
| 1月17日 | 東京奄美会新年賀詞交歓会
(東京与論会関係30名、全450余名参加) | 上野「精養軒」 |
| 1月30日 | 佐藤持久氏85歳祝賀会
(東京与論会より祝電打電) | 与論町 |
| 2月14日 | 全国与論会&名瀬与論会
(佐藤・竹本両顧問、竹内会長夫妻出席) | 奄美市山羊島ホテル |
| 2月20日 | 東京奄美会執行部会 | 神田スポーツセンター |
| 2月21日 | 東京与論会拡大役員会・新年会 | 高田馬場「土風炉」 |
| 3月12日 | 東京奄美会執行部会 | 万世橋公民館 |
| 3月25日 | 東十条小学校卒業式(五十嵐女性部長出席) | 東十条小学校 |
| 4月 6日 | 東十条小学校入学式(竹内会長出席) | 東十条小学校 |
| 4月17日 | 東京与論会役員会(執行部会) | 高田馬場「土風炉」 |
| 4月23日 | 東京奄美会執行部会・幹事会 | 神田区民館 |
| 5月14日 | 東京奄美会役員会 | 神田区民館 |
| 5月15日 | 鹿児島与論会総会(佐藤・竹本顧問、竹内出席) | 鹿児島ジエイトガーデン |
| 5月22日 | 東京住用会総会(佐藤顧問、竹内会長出席) | 四ッ谷主婦会館 |
| 5月28日 | 東十条小学校運動会
(奄美会&与論会女性部20名、竹内会長参加) | 東十条小学校(校庭) |
| 5月29日 | 東京沖洲会総会、竹内、前田、五十嵐出席 | 大井町きゅりあん |
| 6月12日 | 関西与論会総会・懇親会、佐藤顧問、竹内出席 | 尼崎市園田公民館 |
| 同 上 | 第18回渋谷・鹿児島おほら祭り
(女性部9名出演、応援団5名) | 渋谷道玄坂 |
| 6月27日
～7月2日 | 与論3小学校児童体験学習
(児童11名、町岡教育長他全16名上京) | 東十条小学校 他 |
| 7月 1日 | 与論児童歓迎懇親会
(佐藤、竹内、前田、五十嵐及び児童親戚6家族) | 北区赤羽会館 |
| 7月 2日 | 東京奄美会青年部バレーボール大会
(与論会青年部3名参加) | 東十条小学校 |
| 7月 3日 | 東京与論会役員会(執行部会) | 高田馬場「土風炉」 |
| 7月17日 | 東京瀬戸内会総会(佐藤顧問、竹内、五十嵐出席) | 大井町きゅりあん |

7月23日	東京奄美会役員選考委員会 (竹内会長選考委員として出席)	池袋「清瀧」
7月24日	東京名瀬会総会(竹内会長出席)	四ッ谷主婦会館
同上	関東伊仙町会総会(佐藤顧問、竹内、五十嵐出席)	大井町きゅりあん
7月30日	東京奄美会第2回役員選考委員会 (竹内会長選考委員長として出席)	内神田集会室
同上	東京奄美会執行部会・幹事会 (竹内、遠山、前田出席)	同上
8月6日	東京奄美会拡大役員会(暑気払共) (佐藤、竹本、阿多、竹内、遠山、前田、五十嵐出席)	目黒三州倶楽部
8月7日	東京奄美会文化講演会 (全110余名参加、与論会14名出席)	四ッ谷主婦会館
8月14日	東京与論会拡大役員会	高田馬場「土風炉」
8月21日	関東大和会総会(竹内、五十嵐、藤沢出席)	大井町きゅりあん
9月4日	東京龍郷会総会(竹内会長出席)	日本教育会館
9月7日	東京奄美会チャリティゴルフ大会 (全45組、与論より3組12名参加)	大宮ゴルフコース
9月11日	東京喜界会総会(佐藤顧問、竹内、五十嵐出席)	大井町きゅりあん
9月18日	東京与論会役員会	高田馬場「土風炉」
9月19日	関東徳之島町会総会(佐藤顧問、竹内出席)	大井町きゅりあん
9月20日	東十条小学校与論盟約集会 (山下顧問、竹内、奄美会森会長、田川出席)	東十条小学校
9月25日	関東天城町会総会(佐藤顧問、竹内会長出席)	大井町きゅりあん
10月1日	東京奄美会役員会	神田公園区民館
10月2日	東京笠利会総会(佐藤顧問、竹内会長出席)	四ッ谷主婦会館
10月16日	東京与論会拡大役員会	高田馬場「土風炉」
10月23日	関東宇検村会総会(佐藤顧問、竹内会長出席)	大井町日本民謡会館
10月30日	東京奄美会総会・芸能祭 (与論より山町長出席、与論会関係65席)	大井町きゅりあん
11月19日	与論高校創立50周年記念式典	与論町
同上	東十条小学校創立60周年記念式典 (町岡教育長、東京与論会顧問、会長他出席)	東十条小学校講堂
11月20日	東京与論会第94期(平成28年度)会員のつどい	日本教育会館

○ 主な会務活動

- 1) 東京与論会第93期(平成27年度)総会敬老懇親会の開催
及び第94期会員のつどいの企画、準備
- 2) 東京与論会ホームページのリニューアル(4月更新)
- 3) 全国与論会及び各地与論会との親睦、交流活動
- 4) 東京奄美会及び奄美各郷友会との親睦、交流活動
- 5) 与論3小学校と東十条小学校との盟約交流支援
- 6) 支援賛助会の会費収納事務、会員募集活動の展開(報告書は7頁参照)

以上の通りご報告致します。

東京与論会 会長 竹内 英健
幹事長 前田 文男

第93期(平成27年度) 会計(中間)報告

自 平成27年10月09日
至 平成28年10月20日

収入の部		支出の部	
前期繰越金	1,023,684	総会費用	1,429,228
総会収入	1,444,000	渉外活動費	386,912
支援賛助会支援金	1,000,000	女性部活動費	100,000
会議収入	159,547	慶弔費	107,648
雑収入	70	広報広告費(HP運用費他)	49,875
		会議費	10,000
		事務通信費	213,294
		次期繰越金	1,330,344
合計	3,627,301		3,627,301

平成28年 11月20日

東京与論会 会長 竹内 英健
会計長 中山 敏彦



監査(中間)報告

平成27年10月9日から平成28年10月20日までの会計勘定に関する収入及び支出金について帳票及び領収書などにより監査したところ、正確に記録されていたことを認めます。

平成28年 11月20日

東京与論会 監査役 野口 弘明
同 青島 ウメ
同 吉井 清信



東京与論会 支援賛助会 第93期(平成27年度) 支援状況(中間) 報告

会員の多くの方々より東京与論会支援賛助会の趣旨にご賛同を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで、当支援会も平成12年度発足以来16年経過し、当初目標としておりました会員数100名を大きく超え、27年度末(H28.10)現在143名の方々のご入会をいただいております。

会費収納状況も今期は96名の会員の方々からご支援を賜り、おかげで昨年度に続き発足時の目標額であった100万円を支援金として支援することができました。その結果、下記の通りの収支状況となっておりますことをご報告致します。

なお、創立90周年を契機にして新規ご入会会員が増えております。皆様の熱い想いに心よりお礼を申し上げます。

会員の方々のご芳名を併記し、支援状況(中間)報告とさせていただきます。

平成28年11月20日

東京与論会 会長 竹内 英健
東京与論会支援賛助会事務局 竹村 福孝

(記)

第93期(平成27年度) 東京与論会支援賛助会 収支計算書

(平成27年10月9日～平成28年10月20日)

○ 収 入		1,136,142 円
1. 前年度よりの繰越金	181,142 円	
2. 会 費 (96口)	955,000 円	
○ 支 出		1,136,142 円
1. 東京与論会支援金(27年度活動支援分)	1,000,000 円	
3. 事務経費	39,254 円	
5. 次年度支援資金として留保	96,888 円	

会員ご芳名 (全143名) 印 H27新規入会者 ()は逝去者 敬称略50音順
 青島ウメ、青山湛子、阿多照夫、阿野節夫、五十嵐千代、池田俊明、池田信忠、池畑健志、池畑寿哲、(池畑福栄)、井坂好文、石井登喜子、和泉孝位、磯野徳八郎、板橋信三郎、市来一彦、市来保一、伊藤敏久、伊東伯良、入来武久、大内昭男、大内邦江、大野ヒ子、岡崎ツ子、岡本千恵子、沖実治、小田和彦、尾張涼子、柿沼富子、我謝敬子、我謝ひとり、金久裕次、叶実夫、叶生二、叶正雄、叶正義、川上藤納、川上道雄、川田政雄、川田満、川畑隆駿、川畑晴男、川村登志達、工藤満子、黒田しげよ、黒田泰治、坂尻和代、坂元義宏、櫻花茂子、佐藤一英、佐藤政明、佐藤持久、佐藤米昭、塩谷三枝子、重村恵美子、白石敬一郎、杉和夫、杉茂蔵、高田良枝、高橋ツツハ、竹博一、竹成代、竹内先安、竹内英健、竹内康良、竹生守雄、竹川信廣、竹澤賢司、竹沢森一郎、竹下賢、竹波栄喜、竹村公助、竹村福孝、竹本隆成、竹本登、竹本典秀、竹本泰久、立村恵利、谷口納富、(土持正豊)、照元康、寺床笑美子、遠山浩光、戸田初枝、富幸太郎、富岡行沢、富永恵介、富山永信三、直野健次、永井常誠、永井治雄、中田満、西田富士雄、仁禮善美、野上登美子、野口弘明、野尻千佐子、林一男、原田照三、原田安雄、光一彦、久清秀、久富則、平田裕信、福島範子、福島徹、福納敏郎、藤沢裕子、藤山富美子、堀切智慧子、堀行隆、前田文男、牧園徳孝、町永純一郎、益田俊弘、松栄勝、松栄吉、松村博文、村田健、村田力蔵、本徳仁、基佐江里、本畑義夫、山松森、山賀茂弘、山喜義則、山口純子、山下厚江、山下勝利、山下清男美、山下心一、山下政宏、山下美代、山下義弘、山路洋子、山田稻繁、山西英二、山西由美恵、山村達子、横山康明、吉井龍子、若松可久、渡辺まさ江

現在未入会会員の支援会入会案内中です！→詳細は最後の頁へ

ご来賓・会友 ご芳名

(敬称略 順不同)

<ご来賓>

<与論町関係>

与論町栄誉町民	佐藤 持久
与論町議会議長	福地元一郎
与論町教育長	町岡 光弘
与論町教育委員会事務局長	田畑 豊範

<全国与論会関係>

全国与論会幹事長	基 武雄
関西与論会会長	本園 茂徳
鹿児島与論会顧問	嘉味田洋祐
〃 副会長	嘉味田瑞子
〃 顧問	梅花 重夫
〃 令夫人	梅花すみ子

<東十条小学校関係>

東十条小学校校長	福田 猛
〃 PTA会長	川澄 幸男
〃 PTAOB会会長	小林 勇
「ユンヌの海」作者、作家	大久保泰裕

<奄美郷友会関係>

東京奄美会会長	森 眞一
〃 幹事長	花岡 正美

<会友の方々>

東十条小学校	森下 淑子	小原 基紀
東京喜界会	竹 浩一	
東京笠利会	本田 英頼	
東京龍郷会	新島 栄勝	
東京名瀬会	川崎 末一	
関東大和会	里原 廣光	川畑 悦郎
	池田加代子	岩淵 晃美
	名古 潤子	
関東宇検村会	宝村 晃永	石川 幸子
東京住用会	野沢 有得	杉山 清美
東京瀬戸内会	作田 和平	
関東徳之島町会	井上 脩士	
関東天城町会	坂田 崇胖	藤井 壮望
関東伊仙町会	勝 光重	糸 実
東京沖洲会	中野 勲	平山 芳孝
	石原ミヤ子	大山 正巳
東京奄美会執行部	千葉 真弓	田川ホズエ
	山木 城予	
鹿児島県東京事務所	相生 眞一	
報道関係 他	永二 優子	村田 俊美
	津川 清一	

東京与論会 役員名簿

顧問	佐藤 持久	会長	竹内 英健	青年部長	向井 秀一
〃	竹本 登	副会長	堀行 隆	同副部長	供利 優輝
〃	山下 心一	〃	遠山 浩光	幹事	阿多 ミサ子
〃	西田 富士雄	〃	和泉 孝位	〃	池田 信忠
〃	我謝 みどり	〃	福納 敏郎	〃	市来 保一
〃	叶 生二	幹事長	前田 文男	〃	尾張 涼子
相談役	村田 健	副幹事長	山喜 義則	〃	貴島 春樹
〃	山下 政宏	〃	池田 俊明	〃	竹内 康良
〃	杉 茂蔵	〃	佐藤 一英	〃	竹澤 賢司
〃	竹川 信廣	〃	竹内 洋子	〃	立村 ナヘ子
〃	本畑 義夫	〃	横山 康明	〃	直野 健次
〃	阿多 照夫	会計長	入来 武久	〃	仁禮 善美
〃	富永 恵介	副会計長	中山 敏彦	〃	林 一男
〃	永井 常誠	副事務局長	白石 敬一郎	〃	光 一彦
監査役	野口 弘明	事務局長	竹村 福孝	〃	久 富則
〃	青島 ウメ	副事務局長	黒田 しげよ	〃	堀行 洋子
〃	吉井 清信	女性部長	五十嵐 千代	〃	牧園 徳孝
		同副部長	竹澤くみ子	〃	益田 俊弘
		〃	藤沢 裕子	〃	松村 博文

ユヌの海

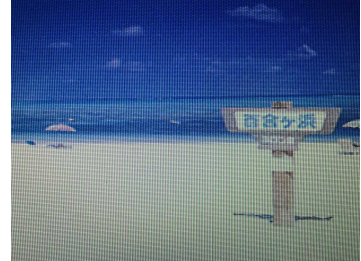
大久保 泰裕

台風が南の風を運んでくると何をしても思い出す。鹿児島府の南方五百六十キロの洋上に浮かぶ、かつて日本の最南端だった小さな島のことを。

私の通っていた小学校と与論島にある三つの小学校とは姉妹校だった。

両校は毎年、生徒を招いていて、私は四年生の時に一度だけその島から来た男の子と机を並べた。

私は島の紹介のスライドで見た、お伽話に出てくる様な島に胸を踊らせ、そこから来た彼にもピーターパンに出会えた様な感覚を受けた。どうやって仲良くなったのか、もう覚えていないが、結果的に僕とM君は体験入学中の数日間で一番の仲良しになった。



お別れの前日、交換した名札は、僕らの友情の証。宝物だった。

しかし思い出が新しい日々に埋められていった様に、名札も宝箱と共に机の引き出しの奥へと沈んでいき、思い出すこともなくなっていた。

ところが中学二年の時、元気だった父が突然、多発性骨髄腫と診断され、余命三ヶ月と告げられた。医者は入院を勧めたが、有効な治療法は無いと聞くと、父は私達に家族四人で過ごせる最後の思い出を作る道を選んだ。

「最初の家族旅行は南の島にしよう」その言葉が引き出しの奥底に埋もれていた色褪せた名札の記憶を甦らせた。

名札を見せ、こんなことがあったと父に話すと、「じゃあその子がお前のことを覚えていたらそこに行こう」と、名札の裏に書かれていた番号に電話を掛けてくれた。

声は変わっていたが懐かしいM君の声が受話器から聞こえてきた。

父は与論島行きを決め、私達家族は羽田から沖縄、そして与論島に向かう。

私達の旅は、父との残り少ない時間を過ごす為のものであったが、幼い弟にはそのことを隠しての悲壮なる旅だった。

眼下に見えるエメラルドグリーンが海が近付き、赤土の大地に飛行機が降りる。タラップが降ろされ、塩分を含んだ潮風が機内に流れ込む。飛行機を一步出ると色が見えそうなくらい強烈な陽射しが私達を迎えてくれた。

与論空港は田舎の公民館の様な作りの小さな平屋建ての空港で屋上が送迎デッキになっている。

一歩ずつ建物に近付いていくとデッキの手摺りに掛けられていた横断幕の字が見えてきた。

「歓迎大久保ファミリー様」そう書かれた横断幕の下を通過して建物に入ると、ゲートの前には教育長さんをはじめ、多くの島民の方々が出迎えてくれた。

思い掛けない歓迎に戸惑いながら挨拶を交わし、宿泊先のホテルまで送ってもらった。

夕方にはホテルの庭で、体験入学で来ていた子達やその家族、友達が集まって歓迎会を開いてくれた。

自己紹介から始まった会は、M君との再会、歓迎のエイサー踊り、バーベキューと流れ、子供達が次々と海へと飛び込む歓迎も行われ、勿論、私もその洗礼を受けた。

夕陽が完全に海へと沈んだ午後八時、まだ明るさの残る中、参加者全員による童謡『ふるさと』の大合唱で会は終了となった。

翌日は、M君のお母さんが迎えに来てくれて島内観光をした。

車で島を一周してから与論城跡に登り、沖縄本島を眺めながら沖縄戦の悲劇を聞いた。この海と空との境界が分からない程、澄み切った美しい場所で、かつてそんなことが行われていたと知ってショックだった。



道すがら昨夜会った人とすれ違うとニッコリと笑って話し掛けてくれたり、剪定中の砂糖きびを切って渡してくれた。ほのかな甘味を感じる砂糖きびをくわえながら、車窓から入ってくる赤く乾いた風を浴びる。島の風は砂糖きび畑を這うように吹いていた。

三線の音が聞こえてくると鍾乳洞は近い。鍾乳洞は広いとは言えないが、この島が珊瑚で出来ていることを教えてくれる。赤崎鍾乳洞の向かいには民俗村があり、その古民家で三線が弾かれていた。

観光が終わると家族で寺崎海岸に行き、誰もいない珊瑚の海を泳いだ。

光と波と珊瑚とが紡いだ幾重もの幾重ものカーテンを父と弟の三人で沖に向かって進んでいく。シュノーケルを着けたゴーグル越しに見る海はとても澄んでいて海に溶け込んだ空を飛んでいるような気がした。

塩分濃度が濃いので、ひとしきり泳いだ後は空を見ながら波のない鏡面のような海を漂う。するとどこから生まれるのか、コポコポという泡の音が聞こえた。ただの泡の音なのに、とても心地の良い音だった。

冷えた体は太陽が優しく包み込み、海水で乾いた口は、母がくれた凍り砂糖が癒してくれた。

この日の夜も島の反対側の漁港で歓迎会が開かれ、お婆さん達を作ってくれたハリセンボンの味噌汁をはじめ島の伝統料理が並んだ。子供達と突堤から海へも飛び込んだ。

「魔除けに」と、スイジガイという貝をわざわざ捕ってきてくれた人もいた。

二日目にしてホテルの部屋の机の上は与論の人達からの温かな気持ちで一杯になった。

綺麗な海とゆっくり流れる時間、そしてそこに住んでいる本当に温かな人達、それはなにもものにも代えがたいこの島が育んだ宝物だ。

私達が東京から持ち込んだ現実の悲しみや辛さといったものは意味を持たないものになっていた。事実、父さえも病気のことを忘れ、楽しんでいたと思う。

三日目には、小学生の時、スライドを見て憧れた百合ヶ浜に渡った。

与論島は、その形から鯨に例えられ、干潮の時にだけ現れる百合ヶ浜は子鯨なのだそうだ。

この島は星の砂で出来ていて、私と弟は島の人から貰ったガラスの小瓶にその砂と思い出を詰めた。

この日も観光客のいない寺崎の海に行き、日が暮れるまで家族四人で遊んだ。明日の夜は東京にいるだなんて信じられない。

ホテルに帰ると、この日はテラス席でのビュッフェだった。台風が近付いていて風は強かったが、波が浜に打ち寄せる音、灯台の明かり、肩を寄せ合って食事をする人々。それが日没後の紫ともピンクとも言えないトワイライトの世界に嵌まる。

料理を取りに行った私が振り返ると父と母は恋人の様に顔を寄せ合って楽しそうに話していた。私は弟に「パパとママの姿をよく見ておくんだよ」と言って席に戻った。



台風の風が上空の雲を払いのけ、最後の夜は星が特に綺麗だった。父が「ホテルの周りを散歩しよう」と言って、若かりし日の思い出を語って聞かせてくれたのも、そんな南十字星の輝く星空の下だった。

最終日の朝は波が荒くなっていたのだが、それでも父と私と弟はチェックアウトの寸前までホテルの前の冷たい海で遊んだ。

空港には来た時以上の人が集まっていて、手作りの演台まで設けられていた。

父がスピーチを求められ、この島に来てからの感動と感謝の言葉を話し、次いで私が緊張しながら「私達家族を温かく迎えて下さり本当にありがとうございました」と言うと、空港の外まで聞こえる程の拍手を島の人々は贈ってくれた。

空港の売店でお土産を見ているとM君のお母さんが私達兄弟を呼んで、ギュッと抱きしめてくれながら「お婆さんはヨロンのお母さんだから、いつでも帰って来んしゃいね」と言ってくれた。その言葉が無性に嬉しくて、胸がいっぱいになった。

台風で欠航が続いていたが、奇跡的にも私達の便から飛べるようになり、定刻通りに飛



行機は滑走路へ。

小さな窓から空港を見てみると、先程まで晴れていたのにスクールが降っていた。

プロペラが大きな唸りをあげ、飛行機が動き出した時、送迎デッキに駆け上がろうとする人の姿が見えた。M君のお母さんだ。

雨の中、傘も差さずに手を振り続けてくれている。

「お母さん、もういいよ。もう十分だから、早く建物に入って」そう言っても、おばさんは飛行機が見えなくなるまで手を振り続けてくれた。

小さくなっていく島を見つめていると、虹が架かるのが見えた。

この島は本当に奇跡で出来ていた。

東京に戻った父が病院へ検査を受けに行くと、「良くなる事は無い」と言われていた数値が、わずかだが良くなっていた。

驚いた医師が「何かありましたか？」と聞くと、父は冗談を交えながら「塩水をガボガボ飲んだからな」と答えた。医師は「塩水が一番危険なんです」と注意したそうだ。

しかし父の数値は、それから良くなり続け、「誤診だったのでは？」と思うまでの回復を見せた。

父はそれから三年間も生きてくれた。

学校を休んでまで本当に沢山の場所に連れていってくれた。

高校生になり、父との最初で最後の海外二人旅にも行けた。そして与論島にも毎年行った。

途中、数値が悪化して入院したこともあったが、父がその最後まで父らしく生き、父らしく死を迎えられたのも、あの島の風土とそこに住む人々との出会い、奇跡があったからだとして私は今も信じている。

父は死の前夜まで家族と話をし、翌日からの試験に備えて勉強をしていた私の所に来て「がんばれよ」と言うと、そのまま眠りに就き、翌日母が洗濯物を干しているそのすぐ傍で眠りながら息を引き取った。四十八歳だった。

その夏も四人で行くはずだった島だが、それからの数年間は、どうしても行くことが出来なかった。

しかし昨年、十三回忌を期に、父をもう一度あの海へ連れていこうと、家族三人で初めての旅をした。

散骨の為、M君の家族と寺崎海岸に行くと、何故だが涙が溢れた。父の葬式でも殆ど泣かなかった私が海を見て泣いている。何かが切れてしまった様に。

父の愛した海は、父のいた頃と何も変わらずに、当たり前のようにそこに広がっていた。

母と私と弟が一片ずつ遺骨を取って海へと流す。

わずかな波でコロコロと掌の上を回って、父の骨は温かな珊瑚の海へと帰っていった。

だからなのか、台風の風を感じると、父が待っているあの小さな島へ帰りたくなるのだ。

(完)

大久保泰裕氏 略歴

昭和59年11月16日 地元の旧家である大久保家18代当主邦彦の長男として生まれる。

平成4年4月 北区立東十条小学校入学

平成7年(4年生) 与論3小学校との交流学习で与論島を知り、M君を知る。

平成9年4月 北区立王子中学校入学 (平成12年4月、私立小松原高校入学)

平成10年(中学2年)7月、父余命3ヶ月と宣告される。8月、家族で与論島訪問。

以後、父が亡くなるまで毎年夏、与論島に旅行する。

平成14年3月4日 父、邦彦死去(享年48歳)

平成19年4月 書道教室教師となる傍ら、大久保家の古筆の展示会、講演会を行う

平成28年1月 「ユンヌの海」にて第11回JTB交流文化賞一般体験部門最優秀賞に選ばれ、作家としてデビューする。

与論小唄

与論民謡

(「十九の春」の元歌)

一、木の葉みたいな我が与論

何の楽しみ無いとこころ

好きな貴方がおねほいそ

嫌な与論も好きとかなる

二、私があなただを思つた数

山の木の数 星の数

三千世界の人の数

千里浜辺の砂の数

三、思えば去年の今頃は

与論赤崎海岸で

ともに手を取り語りしが

今は別れて西東

四、手紙出したが返事無い

生きてゐるやら死んだやら

郵便ポストが倒れたか

港々に船止めか

五、飛んでいきたいあの島へ

飛んで行くには羽がない

歩いて行くには道がない

星を眺めて泣くばかり

六、泣いて暮らすも五十年

笑って暮らすも五十年

泣いて暮らすも笑いのせ

さむいしの風をよむ

与論島慕情

与論新民謡

一、青い海原 きらめく珊瑚

ハイビスカスの 花も咲く

夢にまで見た与論島

夢にまで見た与論島

二、沖の漁り火 夜釣りの舟か

大島通いの 定期船

離れ小島の与論島

離れ小島の与論島

三、三味と太鼓で 一夜は明ける

与論献捧 大杯で

熱い情けの与論島

熱い情けの与論島

四、百合が浜辺で ひろした恋は

フダン葉陰に 咲いて散る

帰りのしもない和論島

帰りのしもない和論島

五、無事な暮らしを みんなで祈る

城やこぼれ ねむらむね

月も空からり 月も空からり

しん() * 印くりかえし()

しん() * 印くりかえし()

しん() * 印くりかえし()

しん() * 印くりかえし()

しん() * 印くりかえし()

与論音頭

作詞 内 与詩守
作曲 益田 元甫

一、フーチャが与論で見せたいものは

花と珊瑚と白浜と

誠いちずの 誠いちずのきれいな心して

* ちん() * ちん() * ちん() * ちん() * ちん()

与論音頭でひと踊る

二、夢が行き交い 望みがひろく

みなと港の 繁盛に

与論いいなと与論いいなとカモメも歌う

しん() * 印くりかえし()

三、与論献捧 大杯まわし

誠打ちじゃち ひび寄せ

ともに語ろう ともに語ろう この喜びを

しん() * 印くりかえし()

四、心やせこく 働き者で

しむぎ姿も 美しい

ほれてみるなら ほれてみるなら 与論の娘

しん() * 印くりかえし()

五、無事な暮らしを みんなで祈る

城やこぼれ ねむらむね

月も空からり 月も空からり

しん() * 印くりかえし()

しん() * 印くりかえし()

しん() * 印くりかえし()

しん() * 印くりかえし()

東京与論会支援賛助会への入会ご案内

■ 支援賛助会とは？

東京与論会の活動に対する財政的支援を目的として平成12年に発足した東京与論会会員による支援組織です。

東京与論会の設立目的及びその活動内容に賛同しご入会して頂いた方々に年会費1万円を納入して頂き、その中から毎年一定額を東京与論会に支援金として拠出しています。(支援目標額100万円/年)

■ 現在の入会、支援状況は？

会の発足時は、呼びかけ当初ご入会頂いた70余名の入会員でスタートしましたが、その後徐々にご賛同者も増えて参りました。

特に2年前の創立90周年を契機として多くの方々にご入会を賜り、現在143名(10月末現在)までその支援の輪が広がっています。

ここ数年来支援会員の方々からの会費納入率が低下してきておりましたが、一昨年来納入率も向上し支援金も目標額に達して参りました。

賛助会会員の皆様方には、引き続きご支援をお願い致しますとともに、改めまして本支援賛助会に未加入の与論会会員の方々に入会ご案内をさせて頂きます。

■ お問い合わせ、ご入会の方法など

支援会事務局にその旨お申し出頂きましたら、さっそくご案内をさせて頂きます。

ご入会のご意思を確認後、会費の振込用紙を送付いたします。

既にご入会頂いている支援会会員の皆様方には、例年5、6月頃に年会費の振込のご案内をさせて頂いております。

■ お問い合わせ先

東京与論会支援賛助会 事務局 竹村 福孝 TEL&FAX 046-254-5355



支援額、会員名等につきましては
本プログラム7頁をご覧ください。

//////// 東京与論会ホームページのご案内 //////////

今年4月に更新しました東京与論会HPのURLは下記の通りです。

<http://tokyo-yoronkai.jp/>

でも検索できます。

HPを活用して発信したい情報を、HP事務局へどしどしお寄せください。

お名前

与論献捧一〇箇条

与論献捧は、お客様への感謝と心からの歓迎の気持ちを込めて、与論の誠の心を献上し、共に永遠の繁栄を祈念するものである。

第一条 与論献捧は、与論固有の献捧であり与論島の象徴（誠の心）である。

第二条 与論献捧は、全町民の真心を主賓に献上してから、関係者全員に施行する。

第三条 与論献捧は、適物適量を敵に一回だけ施行する。

第四条 与論献捧は、平等に施行し、何人たりともこれを断ることはできない。

第五条 与論献捧施行者は、主賓等の適量を誤ってはいけない。

第六条 与論献捧施行者は、施行前に趣旨等を口述し、味見をしてから施行する。

第七条 与論献捧受杯者は、献杯の前に自己紹介等スピーチをしてから受杯する。

第八条 与論献捧施行中は、何人たりとも離席せず私語を慎み、受杯者のスピーチを拝聴しなければならぬ。

第九条 与論献捧施行者は、献捧を終了したら速やかに主催者に報告しご苦労杯を受け、献捧の終了した旨を全員に報告しなければならぬ。

第十条 与論献捧施行者は、施行中の一切の権限と義務を負うものとする。

付則 この献捧は、永禄四年（一五六二）八月十五日（旧暦）から施行する。

メ モ 欄

◆◆◆◆ 東京奄美会 平成29年新年賀詞交歓会のご案内 ◆◆◆◆

日 時 ; 平成29年1月15日 (日) 11:00~16:30

場 所 ; 上野「精養軒」 会 費 ; 8,000円(男性)、7,000円(女性)

当日の案内状ご希望の方は受付にお申し出ください。

◆ 東京与論会 第95期(平成29年度)総会・敬老懇親会の日程 ◆

日 時 ; 平成29年11月19日 (日) 12:00~17:00

場 所 ; 日本教育会館9階 喜山倶楽部宴会場 (本日と同じ会場です)

本日はご来場ありがとうございました。

東京与論会役員一同